

写真右=本堂の大修復を終え法要を迎えた現在の称法寺
写真左=境内の流入物を撤去する様子（2011年4月27日撮影）



東日本大震災から7年半

宮城県石巻市・称法寺が本堂を再興

東日本大震災から7年半。津波で壊滅的な被害を受けた宮城県石巻市門脇町・称法寺は本堂の大規模な修復工事を終えて10月28日、落成慶讃法要を営んだ。門信徒など500人が参拝し、念仏道場の再興に境内は喜びに包まれた。

「全国からのご支援のおかげ」と感謝の声

海岸線にある門脇町は、津波による壊滅的な被害を受け、多くの方が亡くなり、津波が押し寄せ、本堂の柱が折れ、隣接する門徒会館とともに浸水し、全壊認定を受けるなどの大きな被害を受けた。境内を埋め尽くした流入物は、全国からのボランティアによって片付けられ、壁、浜縁、障子、ふすま、仏具などの復旧工事を施

し、瓦を一部置き替え、今年7月31日に完成をみた。法要に先立ち門徒総代の浅野亨さん(77)が挨拶し、「被災から7年半、やっと本堂を再興することができました。これも、今日まで称法寺の復興に携わっていただいた全国のボランティアの皆さんのおかげ。感謝の言葉が見つからない」と謝辞を述べた。法要では、門徒が献灯、献華、献香を行い、光り輝く堂内にお念仏の音が響き渡った。

門徒の皆さんの助け。感謝の言葉が見つからない」と謝辞を述べた。法要では、門徒が献灯、献華、献香を行い、光り輝く堂内にお念仏の音が響き渡った。



本堂の再興を喜び、境内ではにぎやかに餅まきが行われた

門徒の皆さんのおかげ。感謝の言葉が見つからない」と謝辞を述べた。法要では、門徒が献灯、献華、献香を行い、光り輝く堂内にお念仏の音が響き渡った。

門徒の皆さんのおかげ。感謝の言葉が見つからない」と謝辞を述べた。法要では、門徒が献灯、献華、献香を行い、光り輝く堂内にお念仏の音が響き渡った。